



【杉山文彦さん】  
 防災で重要なことは、地域でのコミュニケーションだと語る。

## ●防災に対する地域のコミュニケーション

防災で重要なことは地域住民のコミュニケーションではないだろうか。水防団は、市民を水害から守るため、日頃から水防訓練や、ボートを使った救助訓練などをし、水害に備えている。しかし、実際に大きな災害が起きた時、市民は避難をしなくてはならないことも起こり得る。そのような時は、やはり地域で助け合う事が必要だ。体の不自由な方、高齢で独り暮らしの方、小さい子ども、皆が逃げ遅れる事がない様、日頃から情報を共有し、コミュニケーションをとっていく事が大切だ。平素、ひとこと挨拶を交わすだけでも違うと思う。

地域住民の間で、心の通い合う温かなまちになる事を望む。また、水防団員も高齢化が進んでいるが、若い世代にも興味を持ってもらえる様、地域の方との係わりを深めつつ、水防の重要性と魅力を謳っていきたいと思っている。

## ●高齢者に活躍の場を！

少子高齢化が進む中、少子化対策として、親が安心して働ける環境づくりが大切だと思う。子どもを預けられる場所がもっとあれば良いと思う。また、子育て経験のある高齢者に、シルバー人材として、保育士の補助で働く場をつくるのはどうだろうか。核家族化が進む時代において、高齢者と触れ合うことは、昔ながらの知恵などの伝承の貴重な機会にもなる。子どもから高齢者まで、皆がいきいきと元気に、やりがいを持って生活できる、活気のある浜松市であってほしい。

## ●まちなかに無料駐車場を！

車社会の浜松市では、多くの市民が無料駐車場のある郊外の商業施設に出掛けている印象を受ける。特に若い世代が、以前に比べて郊外に流れ、まちなかが寂しくなっているように感じる。まちなかにも、魅力的な店や場所が沢山あるにもかかわらず、気軽に駐車できる場所が少

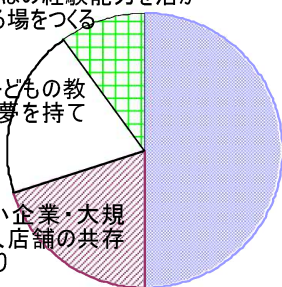
ない。例えば、2時間は無料で駐車できる場所があったら、足を運びやすくなるのではないか。こうして、まちなかの魅力を発見し、人が集まり、賑やかになり、店も増えていくという相乗効果も期待できるのではないだろうか。

### 大災害（原子力災害）のないまちづくり …5点

高齢者ならではの経験能力を活かせる場・働ける場をつくる  
 …1点

未来を担う子どもの教育・子どもが夢を持つ環境づくり  
 …2点

大企業-中小企業・大規模店舗-個人店舗の共存できるまちづくり  
 …2点



【浜松市への期待度グラフ】

## ●大災害に強いまち

浜松市は、自然も気候も素晴らしく、住み良いまちである。30年後も変わらず、今の住み良いまちであってほしい。自然災害はいつ何が起きるか分からない。河川改修・堤防の整備・建物の耐震化・がけ崩れ対策・古い建造物のメンテナンス等をし、あらゆる災害に対応できる、まち作りが必要だ。また、人間が制御しきれない原子力(放射線)による災害は絶対に避けたい。

## 鈴木 雅矩さん

市民協働センター勤務

自転車で1年半かけて日本を縦断した経験を持つ

企業スポンサーをつけてユーラシア大陸を横断したことも

浜松でコミュニティスクールを運営

### ●市民協働を活発に！

大学卒業後に日本や世界中を自身の目で見て回ったが、浜松市は世界的に見ても産業が発達しており、市街地を含めて自然が豊かで、気候も良く、食べ物も美味しいと感じる。ヤマハやスズキなど世界的な大企業も多く、「やрмаいか」精神の影響か、市民活動団体やNPO法人の活動も活発。

浜松市を良くしていきたいと活動されている方々の間のネットワーク構築を担い、より良い活動ができるように手助けをしていきたい。



【鈴木雅矩さん】  
住んでいて楽しいまちを目指すためにも、生きることに希望が持てるまちになれば、と語る。

### ●出かけたくなる、市街地をつくりたい

若者が大都市に集まる理由は、豊かな文化があるからだろう。若者が住みたいまちの基準は、そのまちが面白そうかどうか。例えば、ぶらりとまちに出かけたとして、面白い発見や出会いがあるかどうか、そのまちの文化水準を表していると思う。足を運びたいまちかどうか、全国の政令指定都市に比べると、浜松は弱点があると感じている。建物をつくるよりも、どんな人に使ってもらうか。コミュニティをつくるのが大事。

### ●市街地に若者が集まり、新しい何かを生み出せるまちに

若者の間では、経済的な「タテのつながり」より、互いに興味関心が近い「ヨコのつながり」を大事にする人が増えていると感じている。実際に浜松にも、シェアハウスやコミュニティスクールなどが生まれてきている。人と人とが会うことで自然と新しい事が生まれる。

市街地に、ユニークな発想や、行動力を持つ若者たちのたまり場があれば、そこから新しい何かが生み出される可能性は大きくなるのではないかと。市街地に、鴨江別館やかぎやビルなど、

魅力ある場が増えてきているので、その流れに乗って自分も新しい何かを生み出したい。

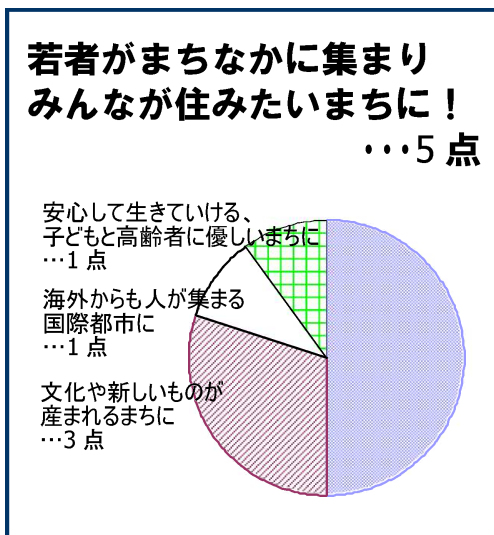
### ●安心して生きていけるまちが理想

若者を集め、新しい何かを生み出すためにも、安心して生きていけるまちづくりが必要。

世界の国の幸福度を見てみると、北欧諸国のような「税金は高いが社会福祉が充実している社会」は幸福度が高い。これは医療・福祉・教育など、国民が生きることへの不安が少ないからではないだろうか。

長いスパンで見たときに、暮らしやすいと思えるまちには人が自然と集まると感じている。

浜松がそうしたまちになる手助けをしていきたい。



【浜松市への期待度グラフ】

すずき けんいちろう  
**鈴木 研一郎さん**

映画監督



【鈴木研一郎さん】  
市内で大ヒットを記録したオール浜松ロケ・キャストのミュージカル映画「プレイヤーズ！！」を制作。

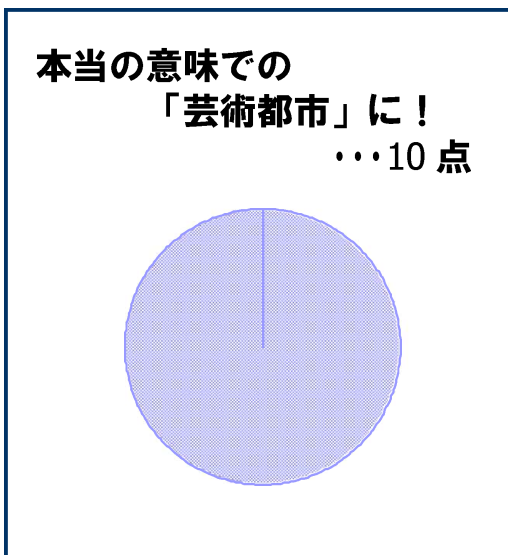
### ●プロが育ち、活動できる環境を！

クラシック音楽に限らず、ポップ、ロック、ジャズ、演歌などあらゆる分野で活躍しているアーティストたちが浜松におり、クオリティの高いアマチュアが多い。反面、「アマチュア」というカテゴリーが成立するため、プロの輩出が妨げられている。浜松が、真に「音楽のまち」となるためには、クオリティの高いアマチュアを更に突き抜けるレベルの人が出て、プロとして生活できる環境でなければならない。そのためには、地元のアーティストを支援する集団や仕組みが必要である。

映像制作の分野においてもプロが育つ環境が整っていない。映像関係の仕事に就きたいという希望があるがどうしたらよいか分からないと地元の大学生から相談を受けた。本当の意味での「メイドイン浜松」の映画は、地元の人材、機材、バックアップしてくれる存在が揃っていないとつくれぬ。この分野も音楽分野と同じように育成する環境を整える必要がある。

### ●フィルムコミッションのあり方を考える

浜松市内には、映画撮影に相応しい美しい自然や趣深い町並みがある。その一方、風が強く、録音やメイクなどの面で撮影しにくいという不利な状況もある。このような状況下において、浜松が芸術都市として映画撮影が活発に行われるためには、地域での支援のあり方を見直した方がよい。浜松にもフィルムコミッションがあるが、交渉先を紹介するだけというのが実情である。他市には、ロケ地の斡旋のみならず、ロケバスや弁当の手配までも行う NPO 法人組織のフィルムコミッションもある。このような支援があると、映像制作関係者は、「また、ここで撮影しよう」という気持ちになる。人材育成も含めて「撮る環境」が整っていくことを望む。



【浜松市への期待度グラフ】

### ●浜松を盛り上げるためには・・・

浜松市で面白いイベントが開催されても、そのときは人が集まるけれど継続しない。運営がボランティア主体であり、「より良くしながら継続する」という意識が薄いのが原因だ。プロのイベントが必死に企画するようになれば、継続したイベントとなる。ただし、プロのイベントが活動するには、公もしくは援助者からの支援が必要である。また、浜松の市民性として、短期で完全燃焼する性質で、ノリが悪いといわれる。市民が特定の期間だけでなく、日常的に楽しむことを覚えれば、浜松はもっと盛り上がる場所になる。

## 鈴木 純哉さん

(公社) 建築士会西部ブロック浜松地区

### ●地域にあった優良ストック住宅を！

近年、長期優良住宅制度のように、住む人が手を入れながら、長く住み続けられる住宅づくりが推進され、また、高気密・高断熱の省エネ住宅の普及が進んでいる。30年後を見据えた住宅の在り方として、現在の流れを受け継ぎつつ、より地域に合った住宅が増えればと思う。浜松では、地震対策が重要なポイントとなるが、県内の建物は他の地域より、構造計算上シビアに設定されており堅牢な建物となっている。既存住宅の耐震性向上についても、耐震診断及び補強計画の経験上、助成額の設定の見直しにより、今よりも進む事が期待できる。行政として必要な支援を行ってほしい。



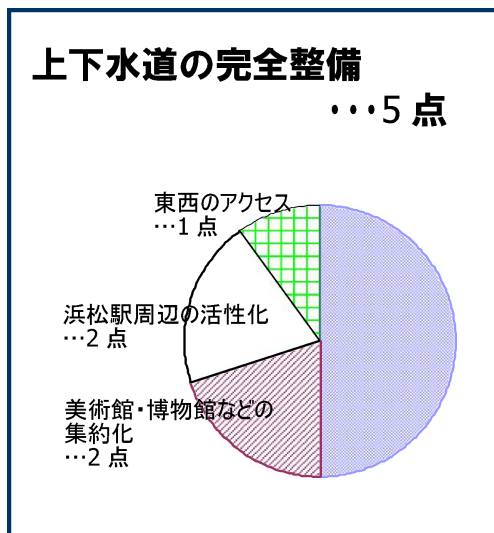
【鈴木純哉さん】  
最近では、耐震補強に併せて、リフォームする家も多くなっていると語る。

### ●歴史的・文化的まちなみの整備を！

浜松は、ものづくりや自然環境などの魅力が多いものの、歴史的・文化的な点が弱い印象。掛川城のように一つのコンセプトに基づき、公共施設のみならず、民間の店舗や住宅も一定の規制のもと、統一感あるまちなみを形成することで、歴史・文化面での浜松の顔が見えるのではないかと。具体的には、浜松駅から浜松城公園までのルートを一つの歴史的なイメージで統一的に整備し、人の流れを作っていく、必要に応じて景観上の規制をかけることも考えたい。

### ●広大な市域に合った都市整備を！

浜松は、合併により広大な市域を有することとなったが、現在の浜松駅周辺や東西の交通アクセスの状況などを見ると、現状を踏まえた都市計画が必要ではないか。例えば、駅周辺には機能を集積し、美術館や博物館、特産物のアンテナショップなど、人を集めるための施設を設置することが有効と考える。また、浜北駅等から新都田を結ぶ公共交通機関の整備により、市内の交流や活動を活発化させることができるのではないかと。また、上下水道の完全整備より市民の生活が向上するのではないかと。



【浜松市への期待度グラフ】

### ●土地利用規制に一工夫を！

建築の仕事上気づくことだが、いわゆる二項道路問題は、緊急車両の乗り入れなど公益上必要な規制として総論では理解されているものの、実際にセットバックしなければならない市民には、不満も多い。このほか、風致地区の規制など、土地利用や開発行為には公益上必要な規制がたくさんあるが、規制だけでは市民の理解が得られにくい。行政が政策を進める上で、規制をかける際には、補助金などの給付措置とセットで行い、実効性を高め、スムーズに整備を進めるよう、工夫してほしい。

すずき たかひろ  
**鈴木 孝裕さん**

静岡県弁護士会浜松支部

## ●市民幸福度の高い成熟したまちを！

浜松は、製造業中心の産業構造であり、ものづくりのカルチャーが、経済のみならず市民生活の全体に根付いている。

こうした長は、産業集積や地域の発展に寄与してきたが、一方で、文化・教育・食やファッションなどにあまり関心を払ってこなかったのではないか。

グローバル化や情報化時代にあって、浜松が更に発展するためには、従来の縦割りの社会構造を打破し、交流型・循環型の社会に変えていくことが求められている。

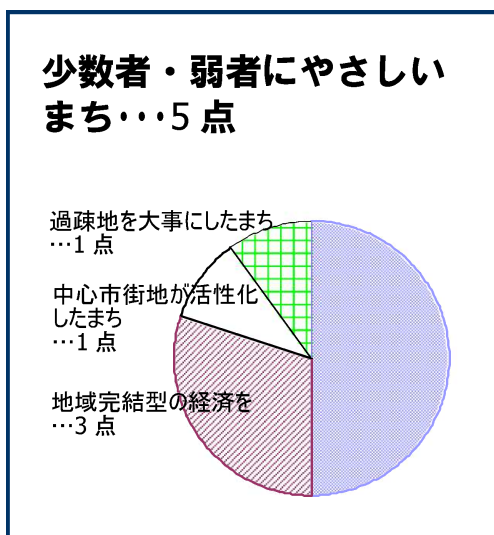
また、新規産業の育成などにより、産業構造の多様化を図るとともに、特色ある文化教育による人づくりに励み、市外からも有為の人材を集め、まちの多様化を図りながら、成熟した民主主義を導いてほしい。

## ●市民本意の柔軟な行政の実現を！

包括外部監査をはじめ、行政と業務上関わることが多いが、政令指定都市となった上、近年のコンプライアンスや個人情報保護などの影響からか、行政が官僚化・硬直化してきていると実感する。行政は、市民の目線に立って、市民の幸福のために仕事をするのが原点であり、法の支配は、単に決められた制度を杓子定規に運用することではない。生活保護など給付の見直しや国が進められる中、市民にとってあるべき福祉の水準を確保するためには、制度にとらわれず職員の専門性を高め、柔軟な発想で政策を行うべきである。

## ●中心市街地の活性化を！

浜松の地域の特性からか、サービス業や商業が弱く、他都市と比べても、まちなかが本当に



【浜松市への期待度グラフ】



【鈴木孝裕さん】  
音楽のまち浜松とういことだが、音楽文化は未だ市民に浸透していないと感じる。

寂しい。百貨店など、これまで中心市街地の核となってきたビジネスモデルが、時代の変遷とともに行き詰まる中ではあるが、都市回帰の流れから高齢者も子育て世代も、駅周辺のマンションに数多く移住している。こうした人達の需要を取り込む施策で、中心市街地が再び活性化するのではないか。

それとともに、市民や観光客など、様々な人を集め回遊させることが大事。案として、路面電車を敷設することや、市庁舎を建て替え、分散した市役所機能を集約するとともに、図書館やレクリエーション、スポーツ施設等を併設するなど多機能化を図ってみてはどうか。

すずき たつのり  
**鈴木 達徳さん**

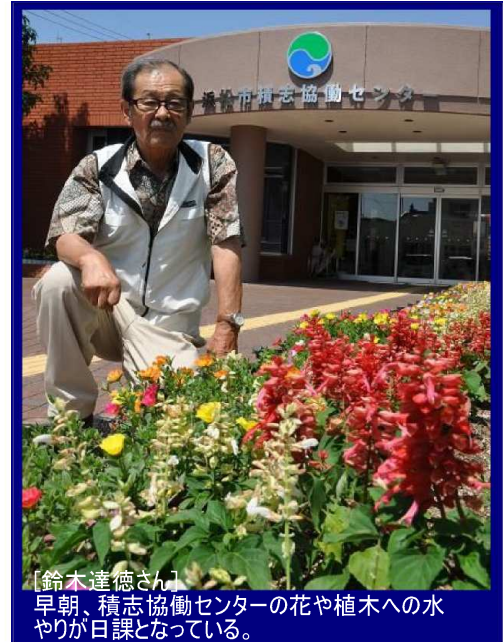
浜松市街路樹愛護連絡協議会 会長

### ●津波対策の充実を！

地震は防ぐことはできないが、津波は対策を講じれば防ぐことができる。住民の防災意識が低いと感じることも多く、防災教育の啓発は大切なことと考えている。

東日本大震災の教訓から、広大な市域を活かし、津波被害が想定される地域の住居や工場は、数十年かけてでも、内陸部へ移転すべきと考える。

これと併せて、海岸沿いの低地を農地として集約化することで、より強い浜松方式の農業を構築するべきではないか。



【鈴木達徳さん】  
早朝、積志協働センターの花や植木への水やりが日課となっている。

### ●高齢者が活躍する社会の実現を！

団塊の世代を始めとする、様々な知識と経験を持った高齢者が増えている。

こうした財産を十分活用するため、高齢者が活躍できるボランティア等の場を用意する必要がある。「老人力」を活用し、社会に貢献するような仕組みづくりを図るべきである。

### ●インフラの老朽化対策を！

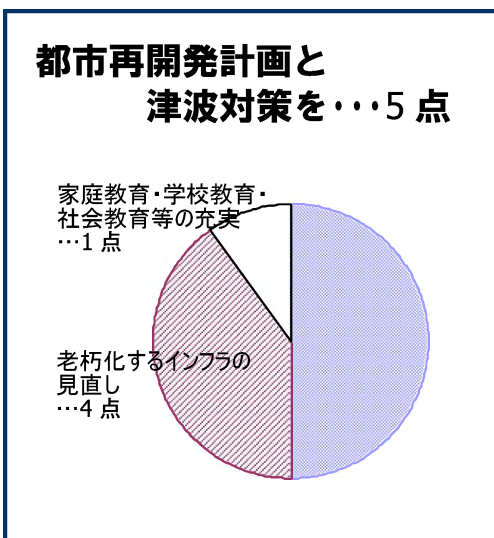
橋梁ケーブルの変状やトンネルの崩落事故などのニュースを、最近よく耳にするようになり、インフラの老朽化を心配している。また、市は庁舎が手狭なため、あちこちの民間ビルに分散して間借りしている一方で、県の総合庁舎は、市民があまり利用せず、随分空きスペースがあり、矛盾を感じる。また、特別支援学校の移転も、県市の調整が十分進んでいないと聞く。インフラや公共施設等の管理など、県と市が協力し合いながら、対応していくべきである。

### ●社会的規範を教える力が弱体化！

地域に住む学生や若者等の、ごみの分別マナーなどを見ても、最近、社会的規範などを教える力が、地域全体で弱まっていると感じる。学問だけに特化せず、家庭・学校・社会での教育を充実してもらいたい。

### ●一言で語れる浜松の特長づくりを！

日本の敗戦で、上海からあこがれの日本（浜松）に10歳の時に帰郷し、60余年。浜松に生活し、愛着を持っているが、近年、浜松の特長がぼやけてきた感じがする。一昔前であれば、楽器、織物、バイクなどが挙げられたが、今は違う。市外から来た人は音楽のまちというイメージがあるようだが、市民感覚としては、あまり感じられない。



【浜松市への期待度グラフ】

すずき たつや  
**鈴木 建也さん**

T-PRODUCE 地域プロデューサー



【鈴木建也さん】  
この地域が世界の音楽に与える影響力は計り  
知れない。それをもっと活かしていければと語る。

## ●浜松市のオンリーワン

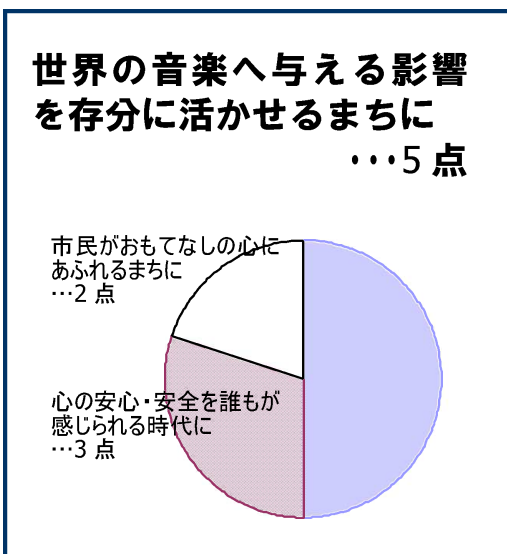
浜松市は輸送機器産業を中心としたものづくり、温暖な気候、豊富な自然、多種多様な農産物・海産物など、誇れるものはたくさんあるが、ナンバーワンでありオンリーワンであるものは、間違いなく音楽である。世界で唯一の総合楽器メーカーがあることはよく知られているが、全国の子どもは浜松でつくられた楽器を使って育ち、聴衆の視線をも計算してデザインされた楽器は常に世界のトレンドとなっている。このまちが世界の音楽に与えている影響は計り知れないが、市民がそのことを自覚していない。自負心を持って、音楽の街・浜松を目指してほしい。

## ●端の文化がやらまいかスピリットの源

欧米が世界の文化、産業の中心であった頃、アジアは世界の端であり、その中でも日本は世界の端であった。やがて鎖国していた日本が開国を迫られるが、外国船がやってきたのは大規模な港がある横浜や神戸である。そうした都市からの外国文化の流入経路からすれば、浜松は日本の端であった。浜松市民の気質として知られているやらまいか精神は、ハングリー精神と近いものがあると感じる。県庁所在地でもない浜松市が独自性とやらまいか精神で発展してきたのは、これまでの端の文化が源ではないかと考えている。

## ●家康くんを浜松市民の模範に

現在、浜松市福市長 出世大名家康くんをゆるキャラ日本一にすべく、市のお手伝いをしている。家康くんの知名度はうなぎのぼりであるが、あくまで日本一は目的ではなく、その先の展開が必要である。家康くんの知名度があがれば、様々な出番も増える。知名度の高いキャラクターであるからこそ、イベントごとに異なった対応をすることなく、おもてなしの気持ちを持ったキャラクターであってほしい。またそれが市民性として根付いてほしい。



【浜松市への期待度グラフ】

## ●少欲知足

豊かさの尺度がモノからココロへシフトしてきたと言われてきてしばらく経つが、まだまだヒトは心の豊かさを追求しているとは思えない。豊かさや幸福感は、欲望を分母に、財産を分子に置いて測ることとなるが、欲望が大きければそれだけ充足感は得られない。少欲知足（欲を少なくして足ることを知る）気持ちを一人ひとりが持ち、心の時代への移行が大切であり、音楽がそのきっかけになればいい。

行政へも、物理的な安心・安全を保障するインフラ整備とともに、心の安心・安全に対するケアへの重視も期待したい。

すずき としひろ  
**鈴木 俊宏さん**

株式会社大場上下水道設計／浜松ウインドオーケストラ（吹奏楽団）

## ●被害の最小化と格差のないインフラ整備

水道施設は、市民生活を支える重要なライフライン。市では、東海地震や東南海地震が危惧される中で幹線の更新や管路の耐震化を進めてきている。地震などの有事の際、被害を最小限に留められるようになってほしい。

日ごろ、天竜区佐久間や水窪などの道路や水道等のインフラ整備がまだ不十分だと感じる。限られた予算で、過疎化の進む地域に多くの配分が難しいことも分かるけれど、市街地に住む市民と同レベルの豊かさを享受できるよう、地域格差のないインフラ整備を望みたい。



[鈴木俊宏さん]  
市街地の水道施設や北遠地区の簡易水道、飲料水供給施設の設計を手掛ける。吹奏楽団ではサックスを担当し、チャリティーにも尽力。

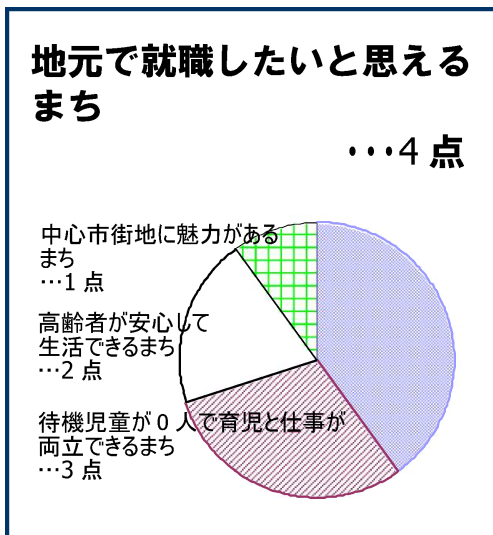
## ●音楽を通じて続けたい「東北支援」

高校生の時から楽器を始め、現在では浜松ウインドオーケストラに所属し、年1回の演奏会や市民吹奏楽団の合同演奏会等に参加している。「音楽のまち」として発展するには、まず音楽に興味を持ってもらえるよう、音楽と触れ合える場が必要ではないか。毎週どこに行けば聞けるのか、催しの周知が重要であり、音楽をしている人とそうでない人との隙間を埋めていきたい。

さらに、最近では、東日本大震災からの復興のため、市内で他の団体と共にチャリティコンサートを開催し、東北吹奏楽連盟に義援金を贈る活動を始めた。私たちにできることを考え、今後とも音楽を通じて、支援を続けていきたい。

## ●求む！待機児童ゼロと山間地域へ若者が移住できる環境

かつて私の長男も待機児童だった。横浜市はすでに待機児童ゼロを実現し、浜松市は269人（平成25年4月1日現在）と県内で一番多くなっている。市では、認可保育園の新規開設や既存の保育園の定員増等の整備を行っているが解消されていない。これまで以上の対応に期待したい。また、山間地域では、若い人が少なくてさびしく感じる。山間地域へ目が向くようにして、若い人が移り住み、子育てができる環境が必要だと考える。



【浜松市への期待度グラフ】

## ●ごみの有料化で新たな対策の推進を

今年度から専用ごみ袋の使用を始めて、粗大ごみが有料となった。より一層、ごみの減量を進めるために、家庭の燃えるごみの有料化を考えてはどうだろうか。公共施設を使えばお金がかかるのだから、ごみも同じだと考える。ごみ処理には、収集、焼却、処分、施設の建替え費用も掛かることから、排出者の市民がある程度負担すべきではないか。そうすればごみが減り、焼却施設は長持ちするはず。浮いた費用や排出者の負担で得た分で福祉や雇用対策等を推進してもらいたい。



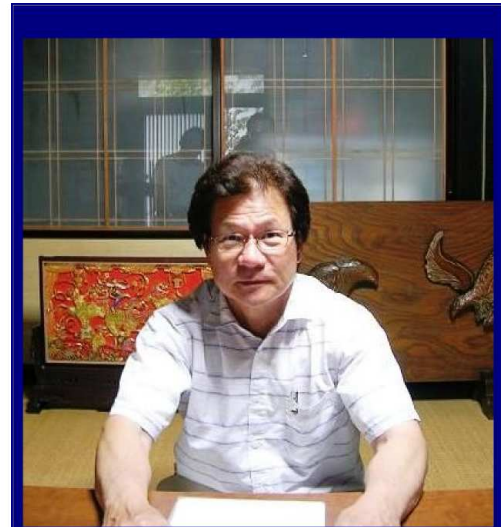
すずき まさあき  
**鈴木 政成さん**

天竜区自治会連合会会長

## ●「国土縮図型都市」浜松

浜松市は、北に全国に誇る天竜美林(日本三大美林)、南に遠州灘、東に天竜川、西に浜名湖があり、自然に囲まれた都市である。また、佐久間ダム、秋葉ダムなどの水力発電に加え、近年では日照時間が全国1位である優位性を活かして太陽光発電の普及を推進しており、クリーンエネルギーについても豊富な都市である。

このように、海、湖、森林の中に都市空間が存在する浜松は、まさに「国土縮図型都市」であり、魅力に溢れ、多様性こそが強みである。



【鈴木政成さん】  
自然の魅力溢れる浜松をもっとPRして中山間地域が活性化してほしいと語る。

## ●オール浜松での盛り上げを

中山間地域と都市部を結ぶ南北間の基幹道路の整備が不十分であるため交流が進んでおらず、浜松の住民皆が一体感を持ってまちづくりを進めていこうという意欲が少ないように感じる。都市部には都市部の発展方法が、中山間地域にはそれに相応しい発展方法がある。中山間地域で林業を営んでいる私たちは、木材の暖かみや森林保全の大切さを、興味を持つ人へ効果的にPRし、林業を衰退させないことが重要である。森林資源が豊富な浜松市のクリーンなイメージを打ち出し、都市部だけでなく中山間地域もバランスよく栄えるまちになってほしい。

## ●林業に興味ある若者が中山間地域で暮らせるために

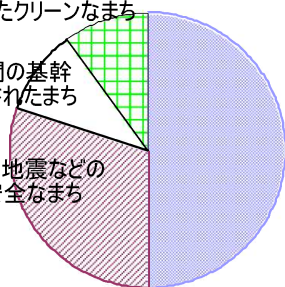
30年後、旧龍山村の人口が半分以下になると予測されているが、この予測が外れることを期待したい。浜松市が持つ魅力には「つくった魅力」と「自然の魅力」があると思うが、中山間地域は「自然の魅力」の宝庫である。最近では「林業をやりたい」と言っている若者が増えている。また、その中には龍山に住みたい、いわゆる「田舎暮らし」に興味がある若者もあり、都市部には潜在的に田舎に興味がある人がもっているのではないかと考えている。中山間地域における遠距離通学対策や、森林資源を活かした雇用の創出、30年後を見据えた林業振興策など、若者が安心して林業を営み、中山間地域で暮らしていけるような取り組みをお願いしたい。人口は少なくても、都市部の人たちに羨ましいと思われるようなライフスタイルを実現できるようにしていきたい。

### 都市部と中山間地域が バランスよく栄えるまち …5点

豊かな森林資源や自然の  
恵みを活かしたクリーンなまち  
…1点

東西、南北間の基幹  
道路が整備されたまち  
…1点

大雨や台風、地震などの  
災害に強い安全なまち  
…3点



【浜松市への期待度グラフ】

## ●相互扶助の希薄化

この地域の自治会加入率はほぼ100%であるのに対して、都市部の加入率は低いと聞く。30年後の龍山の高齢化率は80%との予測もあり、単純に、4人の高齢者の移動、買物などの日常的な世話を、1人の若者が面倒を見るということである。これでは自治会活動や地域における相互扶助が維持できない。

環境が大きく異なる都市部と中山間地域の自治会間の交流が進み、相互理解が促進され、市域全体での相互扶助の取り組みが進展することを期待したい。